

## 国産大豆協議会アンケート結果

資料8

### 1 業界内の在庫状況

団体名	業界内の在庫状況 (通常在庫を100とした場合の割合)				備考
	国産		輸入		
	H20年10月	H21年5月	H20年10月	H21年5月	
日本豆腐協会	105	110	110	105	
全国豆腐油揚商工組合連合会	トヨムスメ 70 ユキホマレ 110	トヨムスメ 80 ユキホマレ 130	100	120	
全国納豆協同組合連合会	消費が落ち込み、 かなり在庫を抱えて いる。	国産大豆使用納豆は 割高感があり、売れ行 き悪く、旧穀原料の在 庫をかなり抱えている	80~90	70~80	
全国調理食品工業協同組合	100 (70~130)	100 (60~120)	90 (50~100)	85 (30~100)	
日本醤油協会	製品出荷量減少につき、原料も減少傾向				醸造期間が長いので、急激な在 庫量の変化はない
全国味噌工業協同組合連合会					
全国きな粉工業会	110	100	100	100	

### 2 今後半年間の国産大豆の仕入れ見通し

日本豆腐協会	これまでと同じペースで購入
全国豆腐油揚商工組合連合会	積極的に購入
全国納豆協同組合連合会	減少予定。企業によっては今年いっぱい旧穀が残る
全国調理食品工業協同組合	これまでと同じペースで購入
日本醤油協会	これまでと同じペースか、減少予定
全国味噌工業協同組合連合会	
全国きな粉工業会	これまでと同じペースで購入

### 3 今後3年間の国産大豆の需要見通し

日本豆腐協会	1割程度増加
全国豆腐油揚商工組合連合会	1割～2割程度増加
全国納豆協同組合連合会	1割～2割程度増加
全国調理食品工業協同組合	これまでと変わらない
日本醤油協会	これまでと変わらない(もしくは若干の増加か)
全国味噌工業協同組合連合会	
全国きな粉工業会	1割程度増加

### 4 今後、国産大豆の購入量を増やすために必要な取組

日本豆腐協会	1. 輸入との価格差縮小 2. 大豆実需者への施策 3. 産地との連携 4. 安定供給 5. 豆腐加工適性の優れた大豆の栽培
全国豆腐油揚商工組合連合会	1. 国産大豆豆腐の消費拡大 2. 新商品の開発 3. 生産者との連携 4. 価格の安定
全国納豆協同組合連合会	1. 安定した価格での供給 2. 納豆に合う品種の開発。
全国調理食品工業協同組合	1. 安価(1万円/俵)かつ安定供給体制への取組 2. 地産品の特長を活かした商品開発 3. 安全性の向上ないし確立
日本醤油協会	1. 価格競争力(価格低減) 2. 品質ばらつき抑制
全国味噌工業協同組合連合会	
全国きな粉工業会	1. 品種改良(糖質の多い) 2. 残留農薬の書類整備

## 国産大豆協議会アンケート結果(穀商連)

### 1 業界内の在庫状況

業者	業界内の在庫状況 (通常在庫を100とした場合の割合)				備考
	国産		輸入		
	H20年10月	H21年5月	H20年10月	H21年5月	
A	120	130	130	140	
B	300	50	80	120	
C	200	200	—	—	
D	100	100	100	100	
E	—	—	15	85	
F	180	120	120	100	
G	130	110	100	100	

### 2 H20産国産大豆の入札が低調な理由

業者	
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20年産輸入大豆が高騰したため、19年産国産大豆の手持ちを厚めにした。</li> <li>・20年産契約栽培も通常年より多くした。</li> <li>・消費低迷で高級品の売れ行きが不振。</li> <li>・販売不人気銘柄が先々安値で販売(相対等)が行われ、相場落ちするのでは？不安感あり。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一定量の契約栽培を行っていること。</li> <li>・量販店からより安い商品を求められていること。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販売不振。</li> <li>・古品の未販売在庫があるため。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産大豆の販売の仕組みについて不信感がある。入札取引については、毎月結果を公表しているが、相対取引の部分については知ることが出来ない。</li> <li>・入札をガラス張りにするのであれば、全ての取引をガラス張りにすべきだ。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各メーカーで製品の売り上げが低調のため、19年産在庫が通常より2～3ヶ月延びている。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景気後退</li> <li>・新型インフルエンザの影響でデパートなどで高級品が売れないため。</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20年産が豊作でメーカーの見方が先安のため、当用買いしかない。</li> </ul>

### 3 今後、国産大豆の購入量を増やすために必要な取組

A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な供給システムを考える。</li> <li>・価格の乱高下を出来るだけ減らして欲しい。</li> <li>・不作、凶作時に備えての銘柄別備蓄。</li> <li>・相対等による安値玉等が相場を下落させないこと。</li> <li>・大量取扱業者や実績に応じた優遇措置。安定供給面、価格面でのプラスメリットを考えて欲しい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大口ユーザーに対するメリットの供与。</li> <li>・輸入大豆との相場の連動。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国産と輸入品との価格差を縮める。</li> <li>・価格安定</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価格フロアが高すぎるため売れない。→実需者は不落玉の販売に疑心暗鬼。</li> <li>・価格フロアを設定するには余程の覚悟を持って決めてもらいたい。売れないからフロアを下げるというのは無責任極まりないやり方。</li> </ul>
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、輸入大豆の価格が乱高下しているため、通常より安定している国産大豆へのシフトを各メーカーへお願いしている。</li> </ul>
F	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景気回復</li> <li>・安定供給</li> <li>・品質向上</li> <li>・輸入大豆との価格差縮小</li> </ul>
G	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、輸入大豆が値上がりしており、期末に売れ残りが出ても、輸入大豆の備蓄から国産大豆の備蓄に変え、年中価格が安定するように販売して欲しい。</li> </ul>